5 無人島におけるヒトスジシマカの生態：吸血飛来蚊の垂直分布
○津田良夫¹、杉山章²、前川芳秀³、高木正洋³（¹ 感染研・昆虫医科学、² 名古屋女大、³ 長崎大・熱研） Ecology of *Aedes albopictus* on a desert island: vertical distribution of biting mosquitoes. Y. Tsuda, A. Sugiyama, Y. Maekawa and M. Takagi

長崎市飯盛町の沖約 500m に位置する無人島「前島」で 1998 年からヒトスジシマカ、*Aedes albopictus* の生態調査を実施してきた。過去 2 年間の成虫調査では、発生密度、経産雌率、採集個体の平均余命を見る限り無人島の集団は対岸の集落に生息する集団と同程度に繁殖に成功していると考えられた。2000 年に実施した記号放逐実験の結果を分析したところ、島の集団の吸血成功率は 1 日あたり 0.252 であり、長崎大学キャンパスで実施した記号放逐実験の分析結果 (0.260) と同程度であることがわかった。島における吸血源動物としては鳥類が重要と思われた。もし鳥類から吸血するのであれば、ヒトスジシマカは樹冠近くまで吸血飛来しているはずであると考え、ドライアイストラップによって樹冠付近と地上の 2 カ所で成虫の 24 時間採集を行った。無人島内の 2 カ所と比較のために長崎大学キャンパス内の 3 カ所を選び、5 日間連続採集を 3 回試みた。ヒトスジシマカを含めて合計 7 種類、1536 頭の成虫が採集された。このうちヒトスジシマカは雌雄合計で全体の 92.4% (1419 頭) に相当し、雌雄のそれぞれ 4.7% (51/1095)、1.5% (5/324) が地上 6 ~ 11m の樹冠付近で採集された。これに対して採集個体数が 2 番目に多かったアカイエカは、58.8% (40/68) が樹冠付近で採集された。

7 Mosquito faunas of Mamuju, South Sulawesi, Indonesia. ○Isra Wahid, Toshihiko Sunahara and Motoyoshi Mogi (Saga Medical School).

Mamuju, a regency in South Sulawesi, Indonesia, is known as an endemic area of malaria and filariasis, diseases caused by mosquito-transmitted parasites. However, only a few data available on mosquito of that area. We were conducting a survey in five villages in Kecamatan Karossa, Mamuju from August 30 – September 9, 2001 and August 28 – September 5, 2002 to acquire more information on mosquito faunas of the area, and to provide more data on vector mosquitoes. Reported mosquitoes are based on adult collection from net-catched adults, light trap, reared larvae during the survey, and adult and larvae reared from ovitrap-collected eggs. This area has rich mosquitoes and plenty environments for their breeding sites, which are vary among villages. The typical tropical rainy season in this area is suitable condition for *Anopheles* and *Mansonia*, as well as for *Aedes*, but no *Ae. aegypti* was found. *Ma. uniformis* probably is the main vector for filariasis, whereas *An. barbirostris* may serve as vector for both malaria and filariasis in this area. High acidity of ground water appeared to prevent *Anopheles* for breed in such area.

6 ラオス国で採集された *Armigeres* 属の蚊について ○當間孝子（琉球大・医・保）、岡澤孝雄（金沢大・留学生センター）、宮城一郎、都築中（琉球大・医・保）、才田進（長崎大・熱研）、小林潤（国立医療センター）、Hongkham Keomanila, Samlane Phompida (CMPE, Lao, PDR)

Armigeres mosquitoes collected in Lao PDR.

Takako Toma, Takao Okazawa, Ichiro Miyagi, Ataru Tsuzuki, Susumu Saita, Jun Kobayashi, Hongkham Keomanila, Samlane Phompida

1999 年から 2001 年まで文部省の科学研究費と JICA の援助を受け、ラオス国でマラリア感染率やマラリア媒介蚊の調査を行ってきた。同時に、蚊相を明らかにするために、他の属の蚊についてもできるだけ採集し、記録した。今回は調査期間中に採れた *Armigeres* クロヤブカ属の蚊について紹介する。

幼虫採集を行い、成虫まで飼育した。雄生殖器のスライド標本を作り、顕微鏡下で同定を行った。その結果、*Armigeres* 属の蚊は 1 新種と 3 新記録種 *Ar. foliates*, *Ar. digitatus*, *Ar. omissus* と、3 記録種 *Ar. aureolineatus*, *Ar. subalbatus*, *Ar. flavus* が採集された。これまでの記録と合計すると、ラオスには 15 種のクロヤブカ属の蚊が生息していることになる。

8 ヤンバルギンモンカの本州採集例と孟宗竹林における越冬について ○水田英生、森英人（神戸検疫所）、涌元美彰（広島空港検疫所支所） Collection of *Topomyia yanbarensis* in Honshu, and overwintering in Moso Bamboo Grove. Hideo Mizuta, Mori Hideto, Wakumoto yoshiaki

ヤンバルギンモンカ *Topomyia yanbarensis* は 1976 年に宮城により沖縄本島北部から発見されて以来、鹿児島県や長崎県からも生息報告がなされた。一昨年報告した大阪府泉南市新家や兵庫県神戸市西区での生息確認に続き、本年は、冬期には積雪のある広島県豊田郡本郷町や兵庫県飾磨郡夢前町での採集例を報告すると共に、ヤンバルギンモンカが高密度に生息する泉南市新家の孟宗竹林において（昨年報告）、冬期に越冬幼虫を有する竹切株を多数認めたので、その状況を報告する。

越冬幼虫は竹の切口が地上高 77 cm 以上、切口から節下端まで 13 cm 以上の竹切株の溜水の上に認められ、この条件下での越冬生息率（生息竹切株数／条件適合竹切株数）は 66.7 % で冬期を除く期間のこの条件下での生息率 7.1 % を大きく上回った。また、この条件以下の竹切株にはキンバラナガハシカ *Tripteroides bambusa* の幼虫が越冬していた。一方、人工的に直径約 3 mm の穴をあけた節（竹穴トラップ）内では冬期にさしかかるにつれ、幼虫の生息数は減少し、越冬生息率（生息竹穴トラップ数／設置竹穴トラップ数）は 21.1 % と夏期の生息率 84.2 % を大きく下回った。ヤンバルギンモンカは西日本一帯に広く分布しているものと思われる。